

「論理的思考の実践③～立論・反駁の準備」教員指導案

- (1) 目標：ディベートを通し、論理的思考力を育成する。
- (2) 教材：①ディベートエントリーシート
 ②「論理的思考の実践③」ワークシート 1（A 3 片面 各班 2 枚【肯定側 1 枚、否定側 1 枚】）
 ③「論理的思考の実践③」ワークシート 2：ディベート準備用紙
- (3) 持ち物：筆記用具、AKC ファイル
- (4) 事前準備：
- (5) 担当者：各クラス担任（各教室で実施）
- (6) 本時の指導計画

段階	学習内容	学習活動	指導上の留意点
導入 2 分	本時の内容の確認		・ 本時は「肯定側・否定側」に分かれ、「ディベート」の準備を行うと伝える。
展開 1 10 分	役割決め 座席の移動 論題・プランの確認	<ul style="list-style-type: none"> 各ディベート班で肯定側、否定側に分かれ、プラン・役割を決めさせ、ディベートエントリーシートに記入させる。 肯定側、否定側で「記録係」を各 1 名決める。 「ワークシート 1」（1）にディベートエントリーシートから、論題・プランを転記する。 	<ul style="list-style-type: none"> 肯定側、否定側同士のやりとりは必要最小限に止めるように指示する。 「ワークシート 1」を肯定側、否定側に各 1 枚、「ワークシート 2」を各自に 1 枚配布する。 「記録係」を決めさせる。
展開 2 30 分	ワークシート 1 の記入（班）	<ul style="list-style-type: none"> 肯定側、否定側の各メンバーと意見交換をしながら、「ワークシート 1」を記入する。 AKC○の時点では、記入しながら、資料として不足しているものや、追加するとよい資料などを検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「ワークシート 1」に班で取り組ませる。 ●月●日（●）の AKC 終了時に「ワークシート 1」は回収する旨を伝える。 ※AKC●の段階で資料の検討をさせて、資料を追加したい場合は、AKC△、□で持参させる。 「ワークシート 1」の記入が終わった班は、「ワークシート 2」を使い、原稿の作成等を始めるように指示する。 前回配布した資料も参考にするように伝える。
まとめ 2 分	本時のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> AKC□の終了時までには、肯定側、否定側の記録係は「ワークシート 1」を提出する。 	<ul style="list-style-type: none"> AKC○、△の終了時には、ワークシート 1 を記録係に保管させる。 AKC□の終了時までにはワークシート 1 を回収する。

※授業後：「ワークシート 1」を肯定側・否定側の各人数分コピーし、記録係を介して返却する（原本は担任が保管する）。

＜ディベート エントリーシート＞

教員用

組 第 班

論 題：

(例)「日本は救急車の利用を有料化すべきである。是か非か」

プラン：

(例) ①救急車を有料化する。料金は、1 回の利用につき定額 1 万円とする。

②来年 4 月から施行する。

	役割	番号	氏 名
肯定側	立論		
	応答		
	質疑		
	第一反駁		
	第二反駁		
否定側	立論		
	応答		
	質疑		
	第一反駁		
	第二反駁		

<ディベート エントリーシート>

組 第 班

論 題：

プラン：

	役割	番号	氏 名
肯定側	立論		
	応答		
	質疑		
	第一反駁		
	第二反駁		
否定側	立論		
	応答		
	質疑		
	第一反駁		
	第二反駁		

論理的思考の実践③～立論・反駁の準備～**<立論・反駁の準備>**

(1) ディベートエントリーシートを参考に、「論題」・「プラン」を確認し、以下に記入する。

論題	
プラン	

(2) プランを実行すると生じるメリット・デメリットを書き出す。

メリット	デメリット

(3)(2)を参考に、「立論」に用いる事項を決定する。

※ 本番は時間が限られており、すべてを話すことはできないので優先順位をつける。

「立論」に用いるメリット／デメリットの内容	根拠となる引用資料・データ 記入例：湘南新聞 2005 年 4 月 16 日 「本当に救急車が必要？」	優先順位

(4)「反駁」に用いる事項を決定する。

相手が立論等に用いる メリット／デメリット（予想）	反論内容	根拠となる引用資料・データ

ディベートに向けての注意事項

《注意事項》

- (1) 「立論」は、立論用の原稿を作成し、スピーチの練習をする。
- (2) 「質疑」は、相手の立論を予想し、質問できそうなポイントの目星を付ける。
- (3) 「応答」は、質疑に対して、明確に対応できるように、立論の内容をしっかりと理解しておく。
- (4) 「第一反駁」は、反駁用の原稿を複数用意し、相手の議論に応じて原稿を使い分けられるようにする。
(各班少なくとも2種類の原稿は作成すること。)
- (5) 「第二反駁」は、立論と反駁の内容をよく確認し、議論の総括をできるように準備する。
- (6) AKC ディベートの試合の流れは、以下の通りとする。(再掲)

○試合の流れ ディベートは1試合34分(+判定講評8分程度)で行う。

肯定側 (12分+5分)	否定側 (12分+5分)
肯定側立論: 4分	*
*	否定側準備時間: 1分
*	否定側質疑: 2分
*	否定側準備時間: 1分
*	否定側立論: 4分
肯定側準備時間: 1分	*
肯定側質疑: 2分	*
*	否定側準備時間: 1分
*	否定側第一反駁: 3分
肯定側準備時間: 2分	*
肯定側第一反駁: 3分	*
*	否定側準備時間: 2分
*	否定側第二反駁: 3分
肯定側準備時間: 2分	*
肯定側第二反駁: 3分	*
判定表の完成: 3分+講評: 5分	

*「質疑(肯定側、否定側)」は、時間以内の終了を認める。

- (7) 「立論(応答)」・「第二反駁」の担当者は立論の原稿を、「質疑」・「第一反駁」の担当者は、第一反駁用の原稿(複数)を分担して作成する。

1 年 () 組 () 班 (肯定側 ・ 否定側)

【 立論 ・ 第一反駁 】 用原稿

作成者氏名 (

)



